

令和2年(2020年)漁期の陸奥湾のマダラ来遊資源の見通しについて

陸奥湾のマダラ漁獲量は、1980年漁期(9月～翌年8月)以降、20トン台から2,000トンの間で長期的に大きく変動しています。2019年漁期(2019年9月～2020年8月)の漁獲量は約1,700トンと、前年漁期に続いて好調を維持しました(図1)。今回、2019年漁期までの年齢別漁獲個体数を基にVPA(Virtual Population Analysis)前進計算により今漁期の来遊資源量を予測したのでお知らせします。

この冬(2020年漁期)の陸奥湾マダラ来遊資源量は、2016年生まれの5歳魚および2015年生まれの6歳魚を主体に、約5,000トンと推定され、前年並みと予測されました(図2)。

なお、北海道大学高津教授の調査によると、陸奥湾における2017年生まれの稚魚豊度が高かったことから、4歳魚が例年よりも多く来遊する可能性があります。

今後も調査を継続し、予測精度向上に努めています。(資源管理部 松谷)

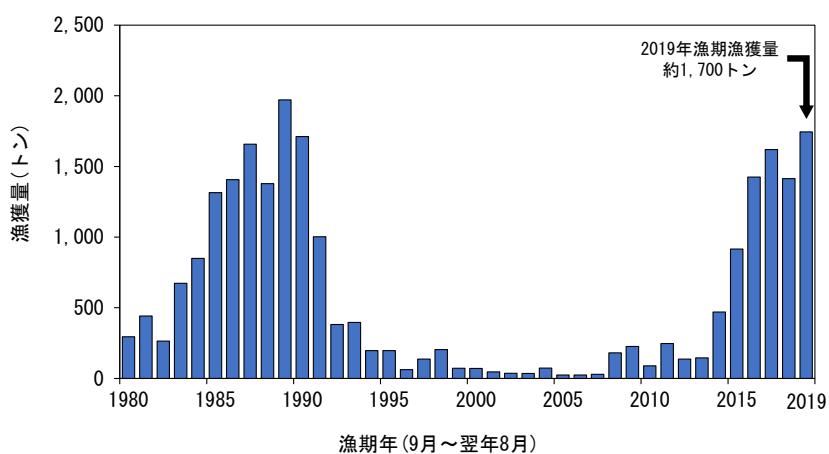


図1 陸奥湾のマダラ漁期年別漁獲量

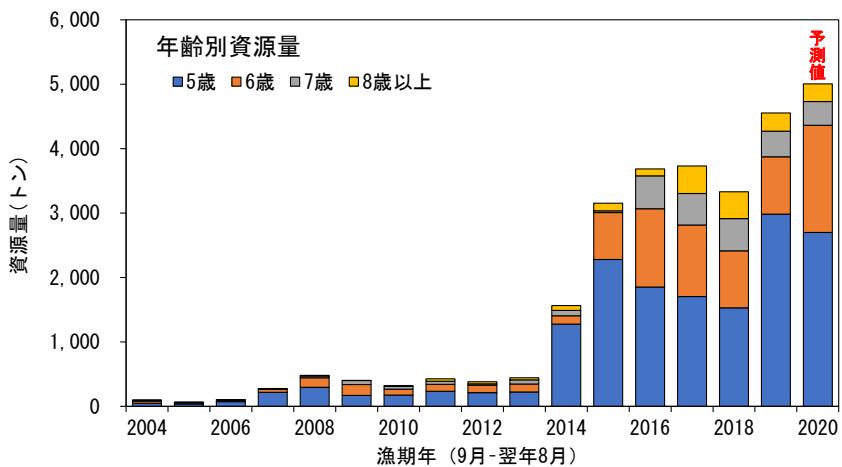


図2 陸奥湾のマダラ漁期年別、年齢別資源量